

第3回三重県総合交通ビジョン策定懇話会

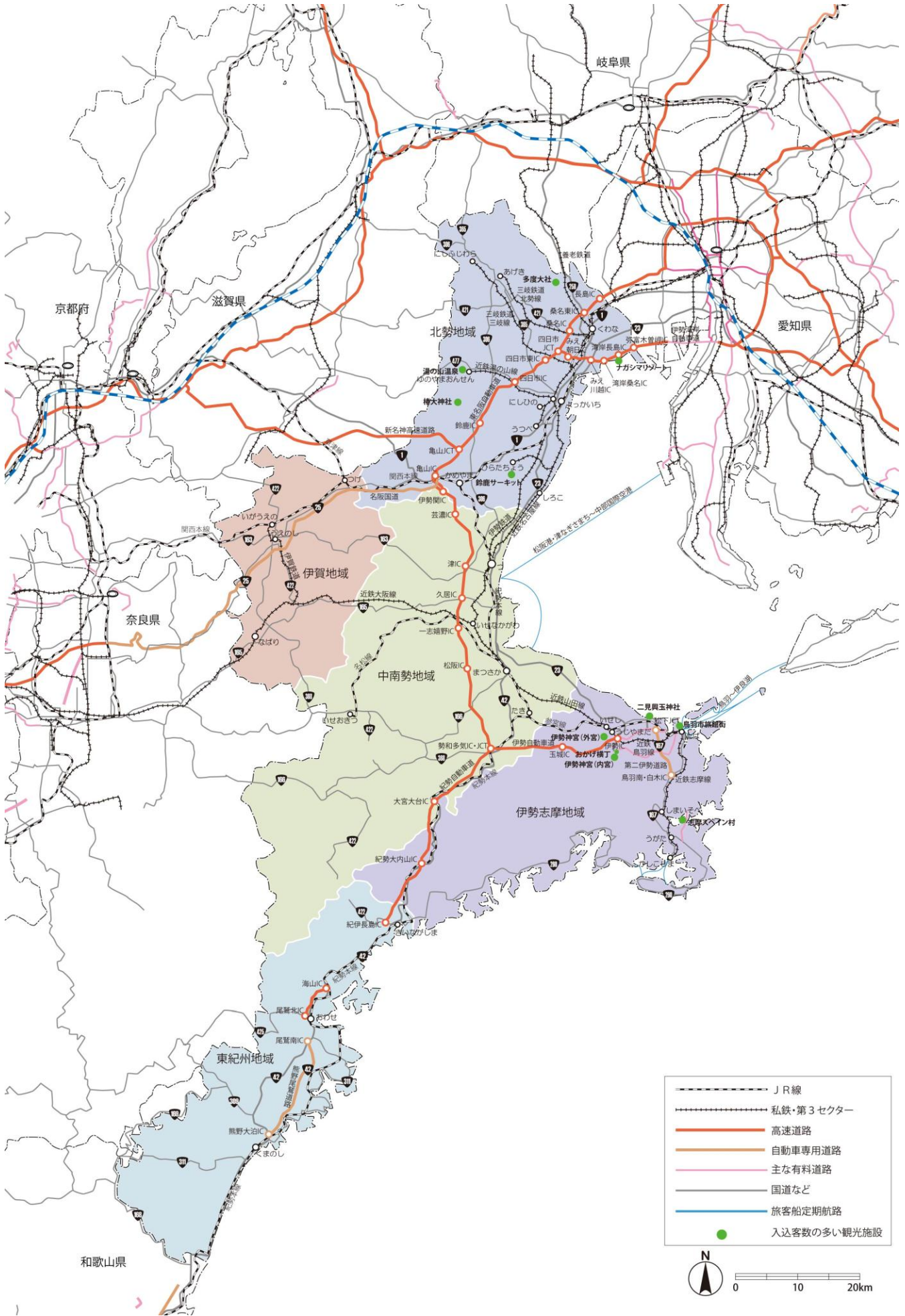
～現況と課題の追加・修正と基本方針（修正案）～

目次

第1章 三重県の交通の現状	1
1-1 社会経済状況	1
1-2 県内の人や物の動き	8
1-3 交通基盤・サービスの状況	18
第2章 三重県の交通課題	34
2-1 みえ県民力ビジョン行動計画が示す交通に関する現状と課題	34
2-2 三重県の交通課題	35
第3章 三重県総合交通ビジョンの基本理念とめざす姿	39
3-1 基本理念	39
3-2 20年後の三重県の交通のめざす姿	40
第4章 基本方針（案）	41
4-1 「県民の日常生活を支える交通」を実現するための基本方針	41
4-2 「県民の多様な交流・連携活動および産業経済活動を支える交通」を実現するための基本方針	43
4-3 「安全で災害に強い交通」を実現するための基本方針	44
第5章（予定） 実施方針	
第6章（予定） 取組体制と役割分担	

平成26年3月18日

◆三重県全体図



第1章 三重県の交通の現状

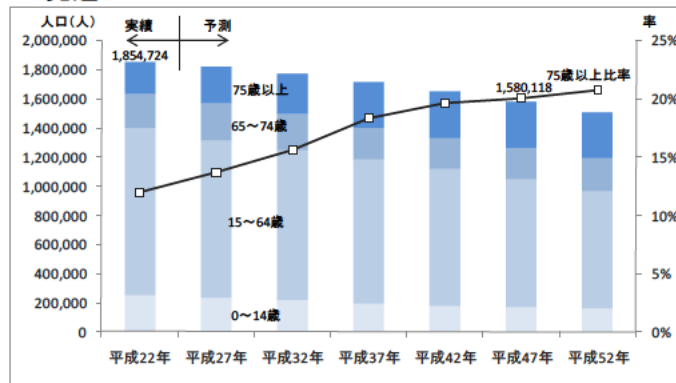
1-1 社会経済状況

(1) 今後の人口動態の変化

◆ 高齢化の進展と人口減少社会の到来

三重県の人口は今後減少するとともに、高齢化が進展する結果として、平成47年（2035年）には75歳以上の後期高齢者の比率が20%に達するものと想定されています。

■ 三重県の将来人口の見通し

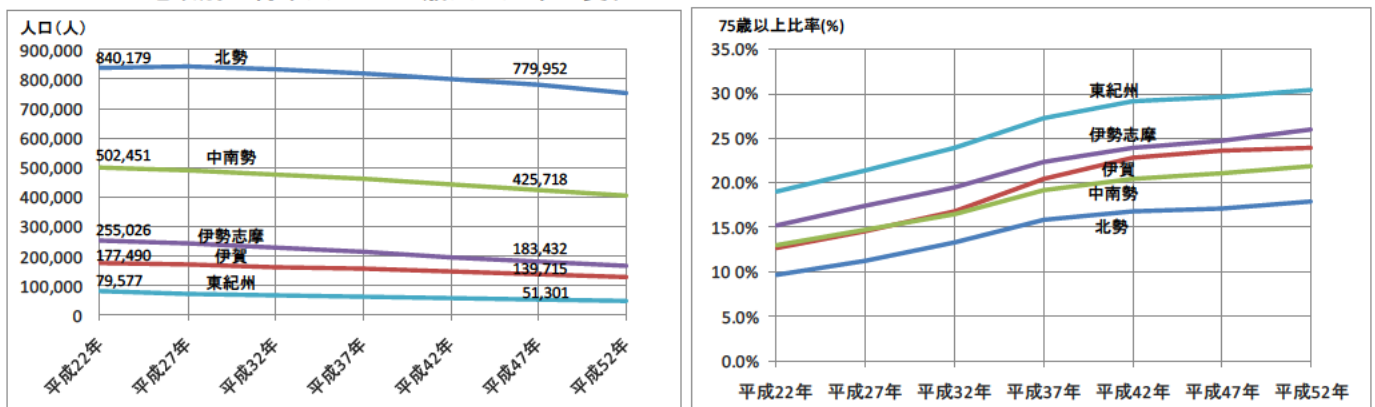


資料：日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計、国立社会保障・人口問題研究所)

地域別に人口変化を見ると、特に伊勢志摩地域や東紀州地域で人口減少が大きく、また高齢化率も高くなり、平成47年時点では75歳以上の比率が東紀州地域では30%に達するものと想定されています。

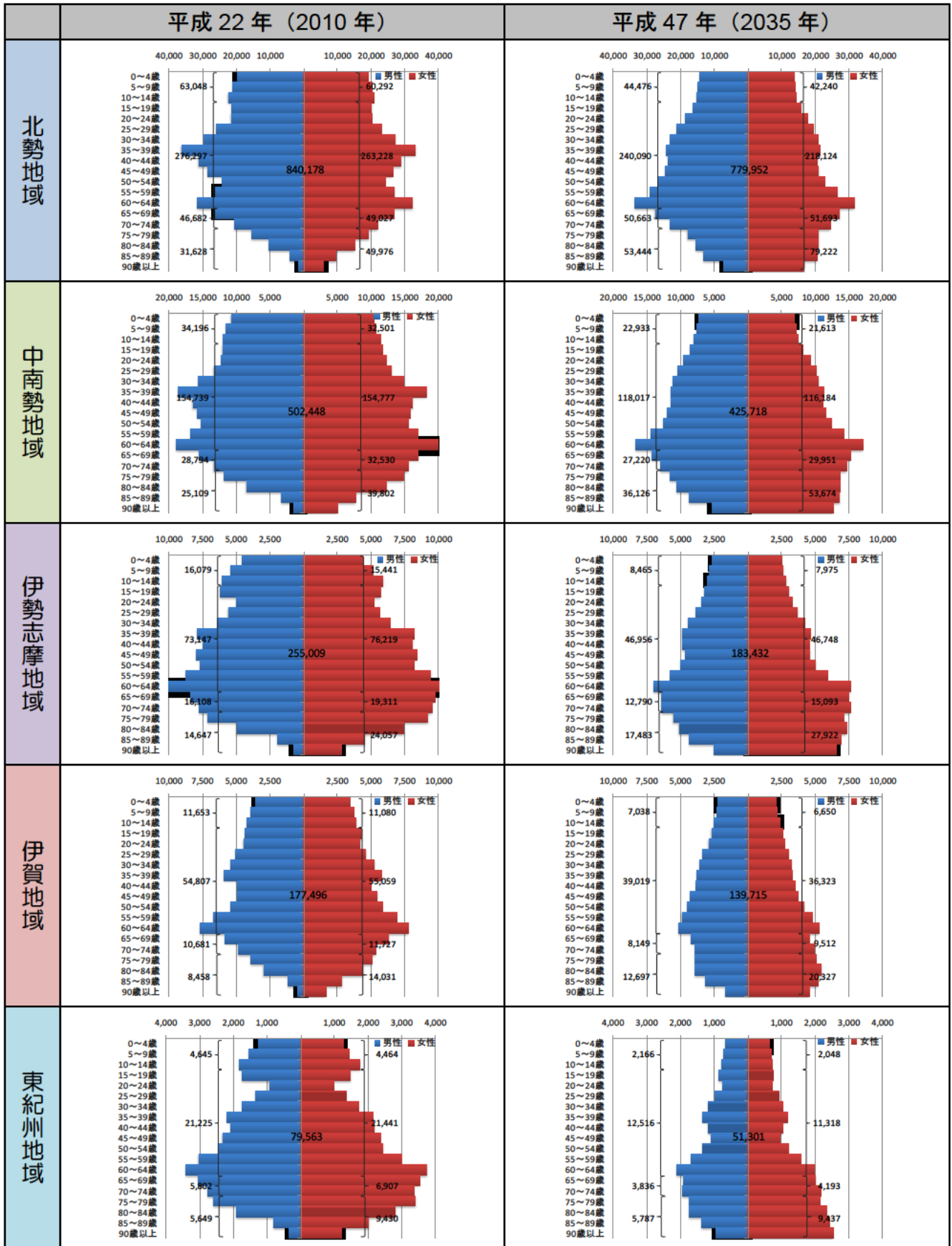
高齢者が多くなると、加齢に伴う身体機能の低下等により自家用車の利用をやめる人も出てくるため、生活の移動手段の確保が必要とされています。

■ 地域別の将来人口と75歳人口比率の変化



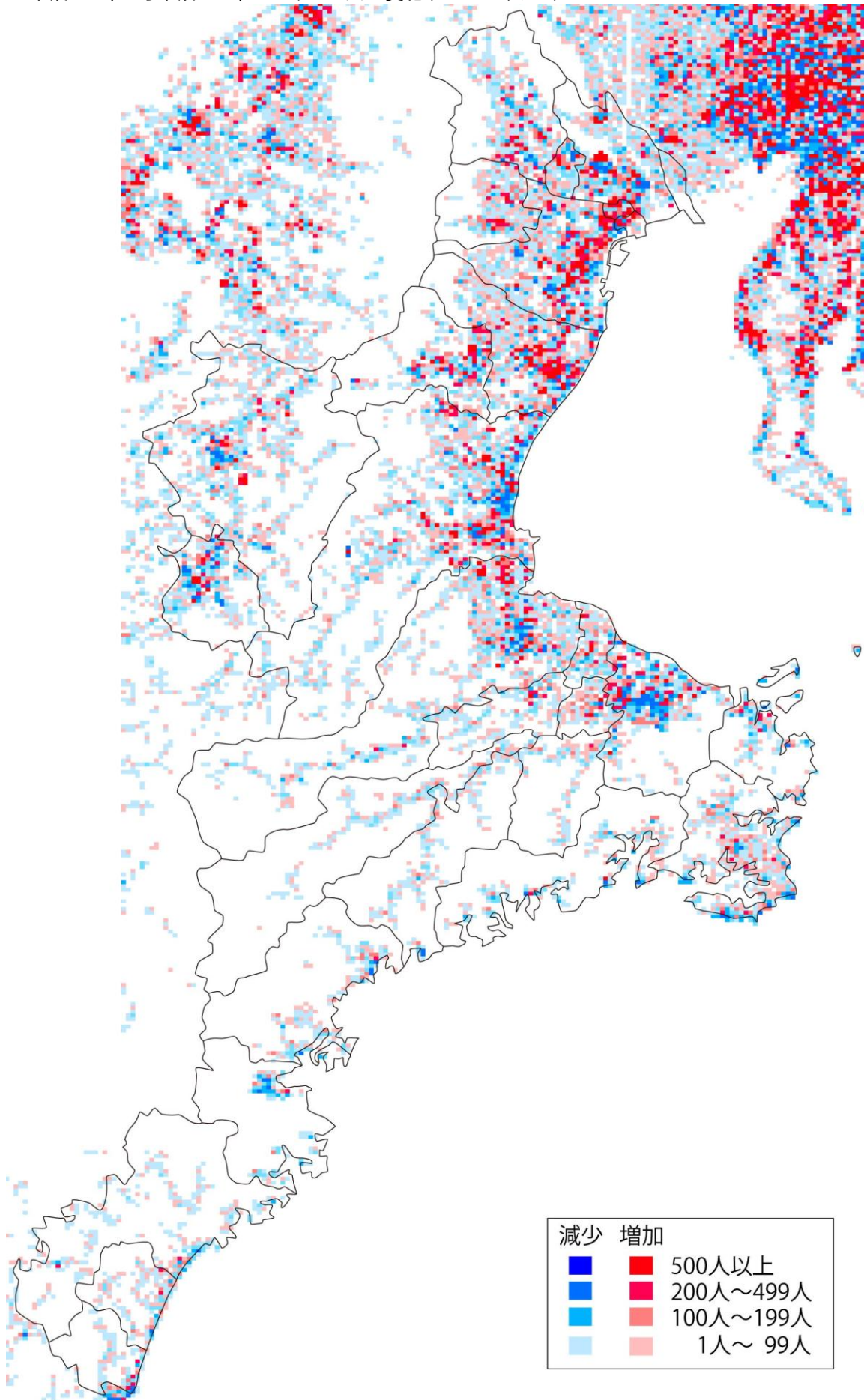
資料：日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計、国立社会保障・人口問題研究所)

■ 三重県の地域別の平成 22 年と平成 47 年の人口ピラミッドの比較



資料: 日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計、国立社会保障・人口問題研究所)

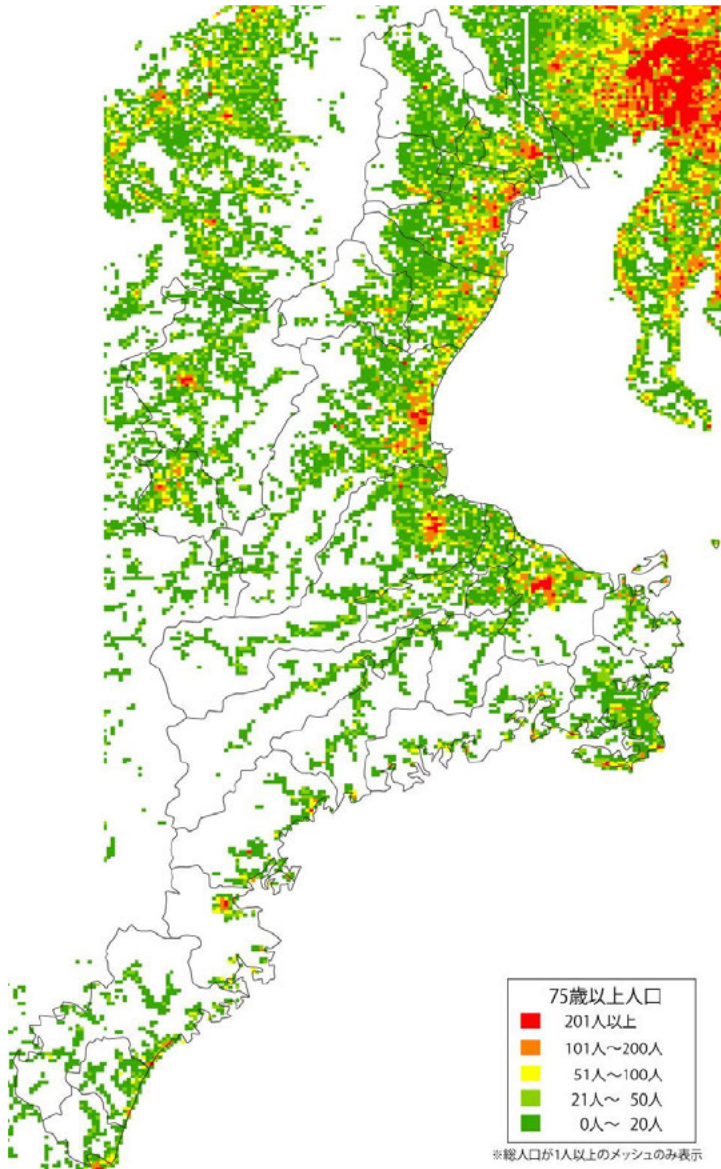
■ 平成17年から平成22年にかけての人口変化(500mメッシュ)



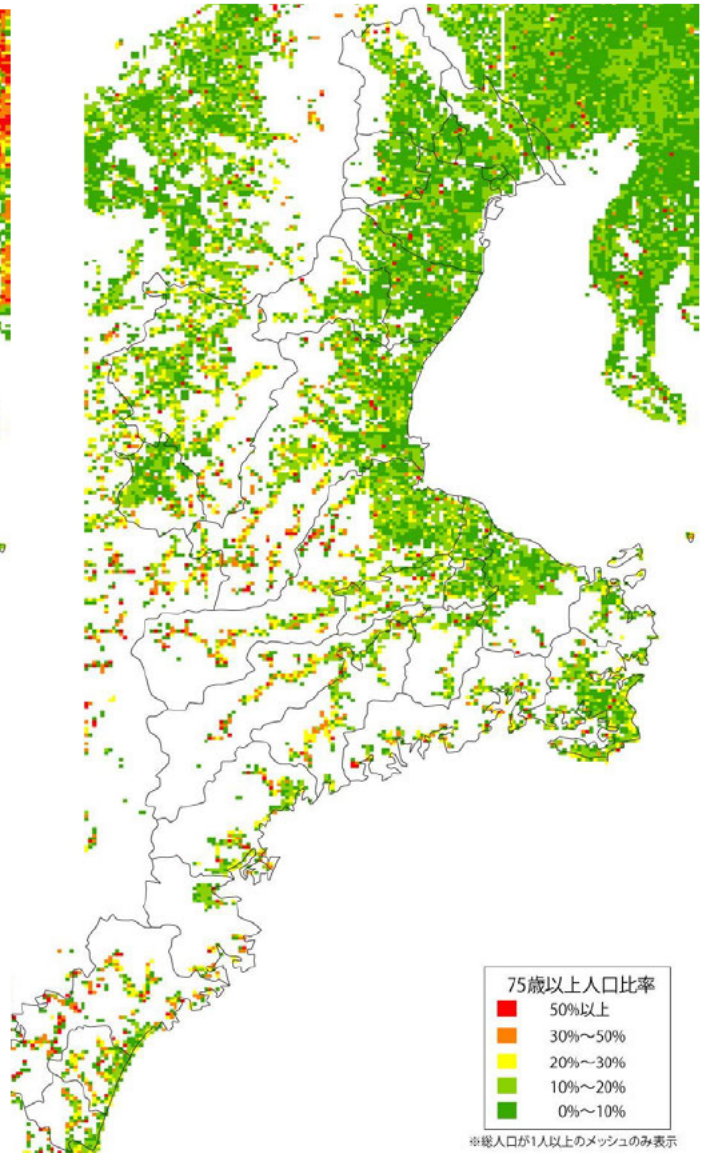
資料: 国勢調査(各年、総務省統計局)

■ 県内の75歳以上の人口状況

① 県内の75歳以上の人口分布 (平成22年)



② 県内の75歳以上の人口比率 (平成22年)



資料: 国勢調査(平成22年、総務省統計局)

(2) 産業

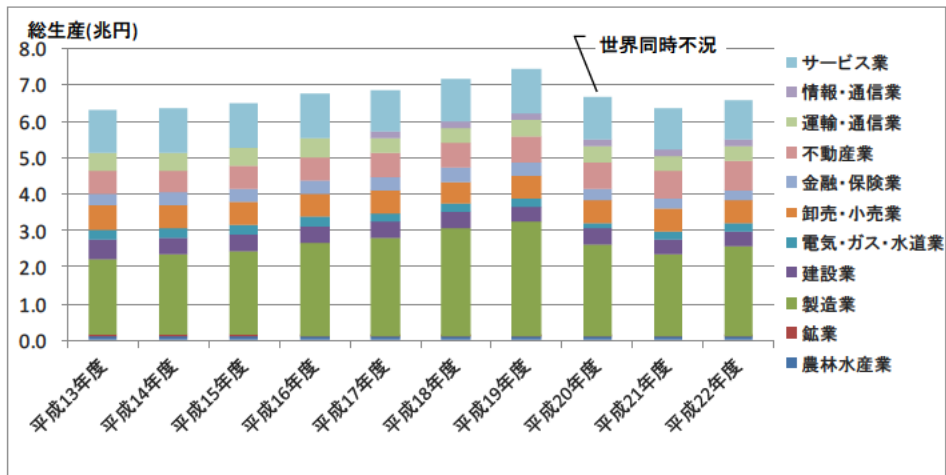
◆ 県内の生産を支えてきた製造業の伸び悩み

本県は日本全体と比較すると、県内総生産に占める製造業の割合が高くなっています。

2000年代初頭に液晶関連企業が多く立地したこともあり、平成15年度以降、製造業の産出額が増加しましたが、平成19年度をピークに、平成20年度以降の世界同時不況や、アジア諸国の製造業の台頭などもあって製造業の生産額が伸びていません。

県内は東西南北に高速道路網が整備されていますが、高速道路のインターチェンジへのアクセス性が悪い地域が多くあることから、県民生活や産業振興を大きく妨げる要因となっています。

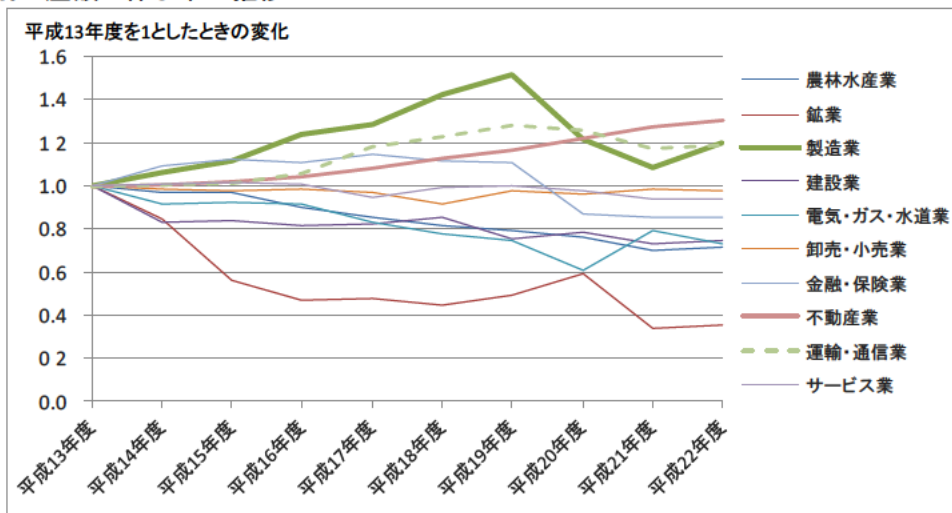
■ 産業別生産額の推移



資料：県民経済計算(各年度版、三重県)

平成13年度を1としたときの各産業の生産額の変化を見ると、10年間で生産額が伸びている産業は製造業、不動産業、運輸・通信業の3つとなっています。特に不動産業は世界同時不況の影響を受けず、順調に生産額が伸びています。

■ 産業別生産額の伸び率の推移



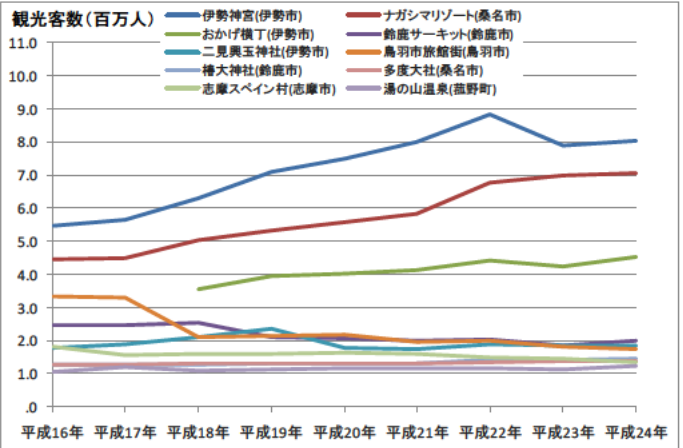
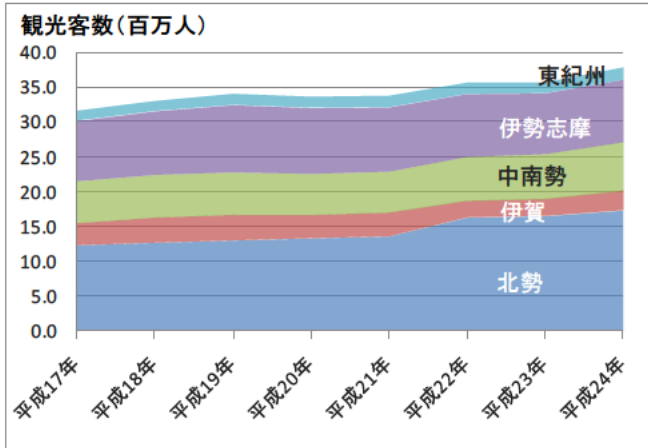
資料：県民経済計算(各年度版、三重県)

(3) 観光

伊勢神宮やナガシマリゾートなどを中心に県内への観光客は増加傾向にあり、県内への観光ニーズは高いものと考えられます。平成24年度は県外からの観光客数は減少しましたが、外国人の観光客数は増加しています。

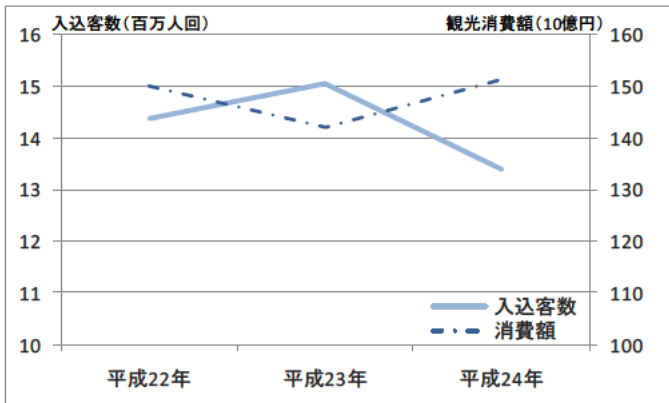
県内の観光施設は概ね幹線道路や鉄道で結ばれており、アクセス性は良好ですが、観光シーズンや大規模イベント開催時に観光施設周辺の道路では大規模な混雑が発生しています。伊勢神宮周辺やナガシマリゾートでは、パーク&バスライドによる渋滞対策に取り組んでいます。

■ 地域別観光入込客数、施設別観光入込客数

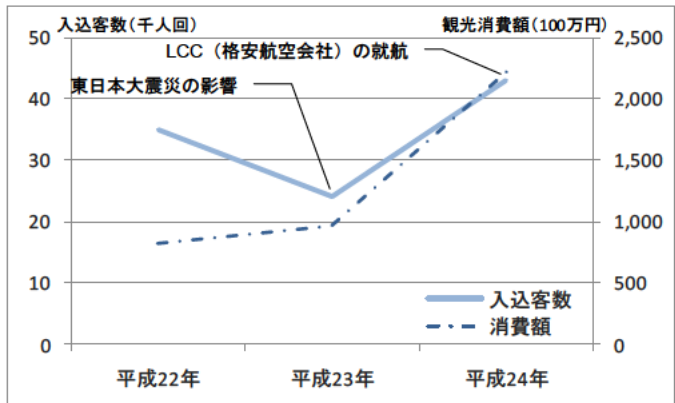


資料：三重県統計書(各年版)

■ 県外および外国人観光客数と観光消費額の推移 《県外からの観光客》



《外国人観光客》



資料：全国観光入込客統計(各年版、観光庁)

◆伊勢神宮のパーク&バスライド

伊勢市では、毎年年末年始や大型連休の伊勢神宮周辺の渋滞を緩和するため、神宮周辺へ向かう自家用車を臨時駐車場へ誘導し、お客様をシャトルバスで送迎するパーク&バスライドを行っています。

実施時には伊勢自動車道伊勢西IC、伊勢ICの出口規制を行い、自家用車を伊勢二見鳥羽ライン上の仮設サンアリーナICから県営サンアリーナ周辺の臨時駐車場へ誘導します。さらに、国道23号のうち1車線をシャトルバス専用レーンとすることで、神宮周辺に直接向かう車の渋滞に巻き込まれることなく円滑に到達できます。

(4) 災害

◆水害による交通機能の障害

これまで幾度となく台風や集中豪雨などの水害により県内の道路や鉄道の交通が寸断されてきました。近年では、平成21年(2009年)の台風18号によるJR名松線での土砂崩れによる不通区間発生や平成23年(2011年)の台風12号による紀伊半島大水害は、県内各地の道路災害による通行止めなど交通機能に支障を来しました。

これらのことから災害に強い道路や鉄道のための法面工事や治山工事、また「命の道」として災害に強い高規格道路の整備が進められています。

◆南海トラフを震源域とする大規模地震および津波の発生の懸念

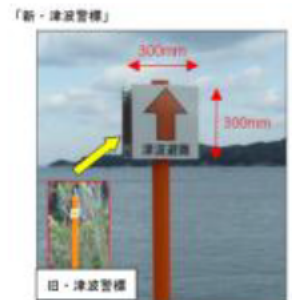
南海トラフを震源域とする大規模地震および津波の発生が懸念されています。特にリアス式海岸が続く熊野灘沿岸部では、津波による多くの集落の孤立が懸念され、内陸の広域幹線道路から、いち早く沿岸部に至るルートを確認する道路啓開が必要となります。このことから県では、国土交通省などと連携して道路啓開基地整備や道路構造強化に取り組んでいます。同様にJR東海や近鉄では、東海・東南海・南海地震発生時の対応策として、緊急避難誘導標の設置や、避難はしごの搭載を進めています。

引き続き、避難所等の設置者である市町との協議を通じて、乗客の安全な避難誘導対策を検討していく必要があります。

■ JR東海における南海トラフ地震発生時の津波避難対策

- ①津波到達が予想される地域を津波危険予想地域として設定
- ②上記地域内の線路脇約100mおきに避難場所までの方向を示した「津波警標」を設置
- ③上記地域内を乗務するすべての乗務員に避難場所、ルートを示した「津波避難地図」を常時携帯
- ④津波避難に対応した「避難場所案内図」を上記地域内の全駅に掲出
- ⑤地震等により停車した際、運転士の安全確認により、津波の恐れのないところまで迅速に列車を移動
- ⑥全編成に発電機能付き携帯ラジオと避難はしごを搭載

資料:JR東海ニュースリリース(平成25年6月12日)



■ 近鉄における南海トラフ地震発生時の対応策

- ①名古屋線、山田線、鳥羽線、志摩線、鈴鹿線、内
部線の津波浸水予想区域を対象に、緊急避難誘導
標を設置



- ②特急列車および一般列車への避難はしごの搭載

- ③「津波発生時の緊急避難場所」地図の作成

資料:近鉄ニュースリリース(平成25年2月12日)



1-2 県内の人や物の動き

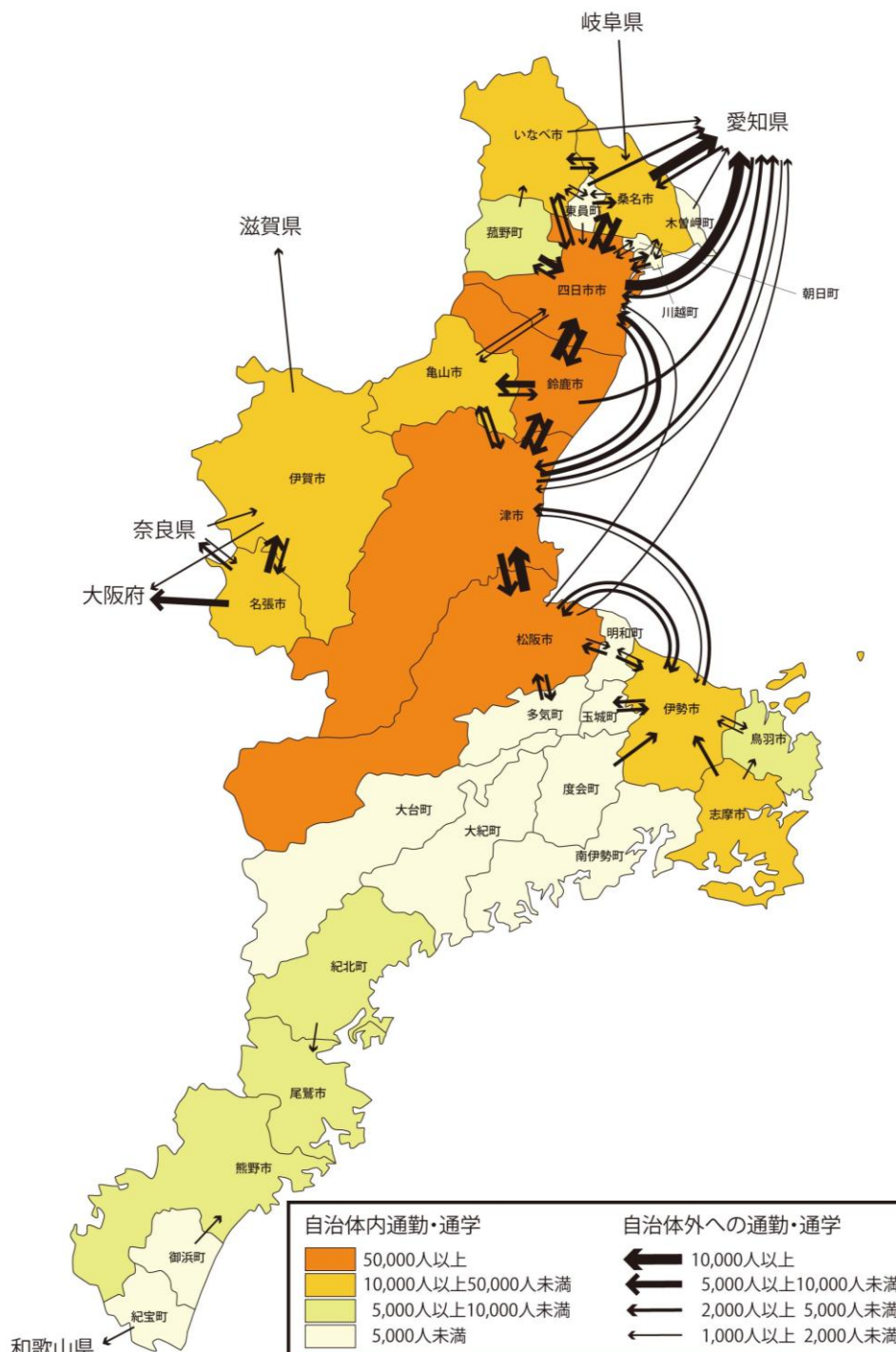
(1) 居住者の通勤・通学行動

県内の自治体では、隣接自治体間の通勤が見られるほか、四日市市と津市、津市や松阪市と伊勢市といった都市間の通勤も見られます。

四日市市や桑名市を中心に愛知県内への通勤も多くなっています。

また、伊賀地域では大阪府や奈良県、滋賀県への通勤が、東紀州地域の紀宝町では和歌山県内への通勤が見られます。

■ 県内自治体居住者の通勤・通学先分布



資料：国勢調査(平成22年、総務省統計局)より作成